

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】 / (分野)	授業形式						
M211L102		解剖学実習 (Practice Human Anatomy)					心身の機構	対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態						
必修	1	1	医学部看護学科	後期	月3, 木2	日本語		複数(共同)						
担当教員	氏名 井上 亮 他													
	E-mail ryo@oita-u.ac.jp 内線 5051													
授業の概要	本科目は、人間の生命活動に関する知識体系の総論と位置付けた解剖学の知識を基盤とし、看護に活かせる人間の生命活動に関する知識体系の各論として、酸素を取り込む（呼吸器系）・栄養を取り込む（消化器系）・廃棄する（腎泌尿器系）・動く支える（筋骨格系）・生命を継ぐ（生殖器系）、および総論で概要として展開した調節機構（感覚器系・神経系・内分泌系）の詳細、さらに解剖体の見学実習を実施しながら学修を深める。本科目の受講を通して、臨床推論に必要な基礎的知識の修得に加え、生命の尊厳についての考えを深めるとともに、看護を学問的に探究していくための礎を築くこともねらいとしている。													
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7
目標1	外界や体内からの情報を中枢が処理し、指令を発することでコントロールされる生命活動の仕組みについて理解できる							○		○			○	
目標2	生命活動に必要な酸素を体内に取り込むための生活行動である「息をする」仕組みについて説明できる							○		○			○	
目標3	生命活動に必要な栄養素を体内に取り込むための生活行動である「食べる」仕組みについて説明できる							○		○			○	
目標4	生命活動で産生され、体内で不要になったものを体外へ廃棄するための生活行動である「排泄する」仕組みについて説明できる							○		○			○	
目標5	生活行動である「動く・支える」ために必要なからだを支える骨格とそれを動かす筋肉の仕組みについて説明できる							○		○			○	
目標6	子孫を残すための仕組みについて説明できる							○		○			○	
目標7														
目標8														
目標9														
目標10														
各DPへの関連度 (計10)								6		2			2	
授業の内容														
1	調節機構：神経系（神経性調節）、感覚器系													
2	調節機構：神経系（神経性調節）、感覚器系													
3	調節機構：神経系（神経性調節）、感覚器系													
4	調節機構：神経系（神経性調節）、感覚器系													
5	調節機構：神経系（神経性調節）、感覚器系													
6	調節機構：神経系（神経性調節）、感覚器系													
7	調節機構：内分泌系（液性調節）													
8	調節機構：内分泌系（液性調節）													
9	調節機構：内分泌系（液性調節）													
10	酸素を取り込む：呼吸器系													
11	酸素を取り込む：呼吸器系													
12	酸素を取り込む：呼吸器系													
13	酸素を取り込む：呼吸器系													
14	栄養を取り込む：消化器系													
15	栄養を取り込む：消化器系													
16	栄養を取り込む：消化器系													
17	廃棄する：消化器系、泌尿器系													
18	廃棄する：消化器系、泌尿器系													
19	動く・支える：筋・骨格系													
20	動く・支える：筋・骨格系													
21	動く・支える：筋・骨格系													
22	生命を継ぐ 生活リズム：生殖系													
23	生命を継ぐ 生活リズム：生殖系													
24	人体解剖実習見学：集中講義として実施予定													
25														
26														
27														
28														
29														
30														
ラーニング目標	A:知識の定着・確認	○	日々の課題学修、単元毎の小テスト、ポートフォリオ作成、解剖実習見学					工夫その他の	LMS、動画 *Moodleを活用					
	B:意見の表現・交換	○												
	C:応用志向	○												
	D:知識の活用・創造	○												
			看護との関連を認識するためのケーススタディを用いた調べ学習											

授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	配布授業資料・教科書の確認・動画視聴（毎回1h：計23h）、日々の課題の調べ学修（毎回0.5h：11.5h）										
	事後学修	授業内容を整理しポートフォリオとしてまとめる（毎回1h：計23h）、単元ごとの小テストの見直し（計5h）										
	想定時間合計	63										
教科書	①「系統看護学講座専門基礎分野 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学 第11版」（2022）坂井建雄、岡田隆夫、宇賀貴紀（著）、医学書院 ②「カラー人体解剖学―構造と機能：ミクロからマクロまで」（2012）、Martini,F. et al.（著）、井上貴央（監訳）、西村書店 ③清村紀子他編（2014）：機能障害からみたからだのメカニズム、医学書院											
参考書	①清村紀子他編（2014）：根拠と急変対応からみたフィジカルアセスメント、医学書院 その他は、開講時に提示											
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10
	学期末試験	80%	○	○	○	○	○	○				
	課題レポート	20%	○	○	○	○	○	○				
注意事項	・Moodleに一括配信した講義資料・教科書を用いて必ず予習し、主体的・積極的に授業に臨むことを期待する。 ・人体解剖見学実習（予定）には必ず参加すること。＊状況によって時期を検討する。											
備考	・本科目の受講を通して、生命の尊厳についての考えを深めていくことも期待している。 ・看護学科、先進医療科学科と合同開講とする											
リンク												
	URL											
担当教員の 実務経験の○ 有無												
教員の実務 経験	井上（医師）											
実務経験を いかした教 育内容	ヒトのからだの構造と機能に関する知識を具体的に解説する。											